

梨病害虫発生状況調査速報

NOSA Iひょうご 豊岡事務所
豊岡農業改良普及センター
JAたじま豊岡営農生活センター

調査日：令和4年7月20日（水）

1 調査項目

表-1

調査項目	黒斑病	黒星病	赤星病	サビダニ類	ハダニ類	アブラムシ	新梢の止まり具合	果実径
調査標本数	100葉	100葉	100葉	新梢100本	20葉	新梢100本	新梢50本	20果

2 調査結果

(1) 黒斑病（調査結果 0～2%）

黒斑病の発生が一部の園地で見られました。黒斑病は毎年の防除の積み重ねが大切です。高温多湿の条件下で発生しやすくなります。園地での大発生を防ぐため、落下果実と病落葉の除去、肥培管理に十分注意しましょう。

(2) 黒星病（調査結果 0～4%）、赤星病（調査結果 0～2%）

黒星病、赤星病ともに発生が見られました。赤梨を混植している場合、黒星病と赤星病が発生しやすくなります。発生の程度によっては、落葉につながる恐れもあります。今後の発生に注意し、防除をしてください。

(3) ニセナシサビダニ（調査結果：2～21%）

ニセナシサビダニが見られました。主に徒長枝上位葉に寄生することが多いため、この部分への防除が効果的です。

(4) ハダニ類（調査結果 0.2～0.6匹/葉）

ハダニ類が見られました。ハダニ類の特徴として、高温と乾燥条件で、多発する傾向があります。今後は、気温の上昇と共に、発生量が増えます。ニセナシサビダニと一緒に防除しましょう。例年、盆の期間中に発生量が増えます。この時期の発生抑制が、今年の発生量を大きく左右します。一枚の葉に、ハダニを2匹以上見かけたら、すぐに防除しましょう。

(5) アブラムシ類（調査結果 0%）

アブラムシ類の発生は見られませんでした。発生の程度により、葉が縮れ、今後の生育に影響を与えます。防除を徹底してください。

(6) 新梢の止まり具合

表-2

調査地区		新梢の止まり具合 (%)	
		R4.7	R3.7
豊岡	金剛寺	92.0	96.0
城崎	飯谷	90.0	96.0
竹野	濱須井	92.0	98.0
平均		91.3	96.7

例年に比べ、新梢の停止が遅くなっています。

新梢の停止時期は、窒素の切れ目を見るのと同じです。この時期、梨園の条件に合った窒素肥料の散布量になっているかを確認してください。

薬剤散布等を行う場合は、「病害虫・雑草防除指導指針（兵庫県農業情報システム）」等を参考にしてください。

(7) 果実の生育について

表-3

調査地区		平均果実径 (mm)	
		R4.7	R3.7
豊岡	金剛寺	57.8	60.5
城崎	飯谷	51.7	55.9
竹野	濱須井	55.3	58.4
平均		54.9	58.3

昨年と比べ、果実の肥大はやや小さくなっています。
 来年用の側枝候補の誘引(45度)は、7月上旬までと言われていました。
 もう済みましたか？

3 気象情報

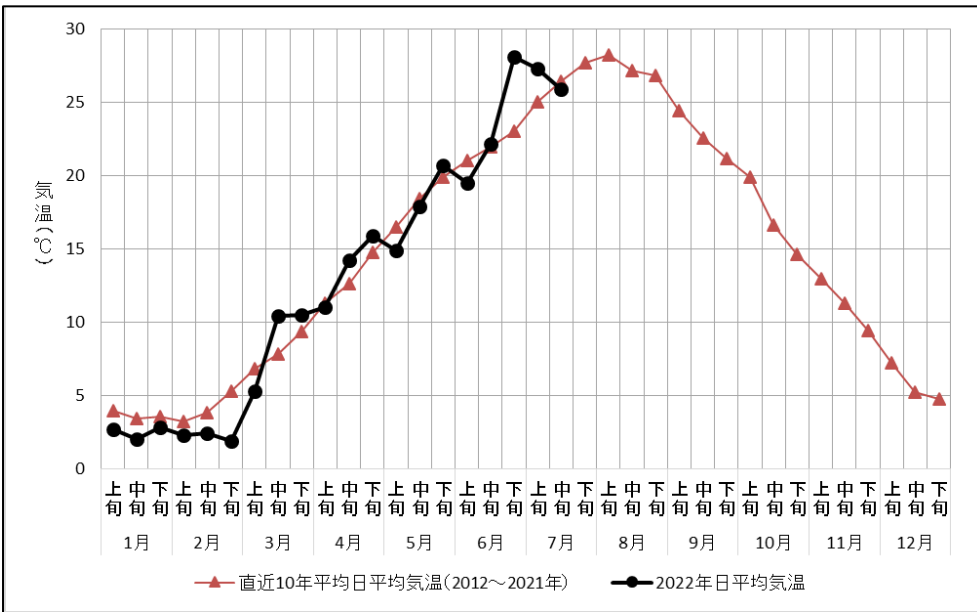


図-1 直近10年平均(2012~2021年)、2022年の日平均気温比較(豊岡)

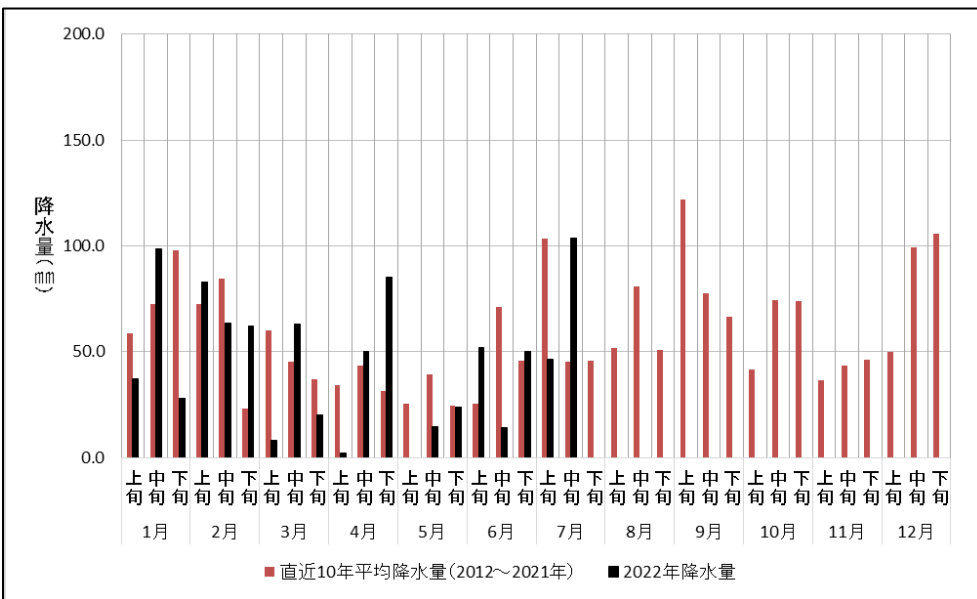


図-2 直近10年平均(2012~2021年)、2022年の降水量比較(豊岡)

～気象と生育について～

今年は梅雨明けが6月28日頃(昨年:7月17日頃、平年:7月19日頃)となり、平年より21日早くなりました。

6月下旬の気温は平年を大きく上回り、7月上旬も平年より高くなりました。

降水量では、6月中旬と7月上旬が平年を大きく下回り、7月中旬は大きく上回りました。

今後の天候に注意し、必要に応じ灌水を行ってください。

急激な気温上昇が予想されます。作業中の熱中症に注意してください。

【参考】果樹カメムシ類の防除対策について

本調査ではカメムシ類の発生は見られませんでした。兵庫県がカメムシ類の防除対策について情報発信しています。詳細は、別添の「令和4年度 病害虫発生予察防除情報第3号」をご覧ください。

☆薬剤、防除の詳しいお問合せ・ご相談は・・・

豊岡農業改良普及センター (TEL 26-3705)
 JAたじま豊岡営農生活センター (TEL 24-3641)

☆共済事故(病害虫、気象上の被害等)の発生は・・・

NOSAIひょうご 豊岡事務所 (TEL 42-4133)